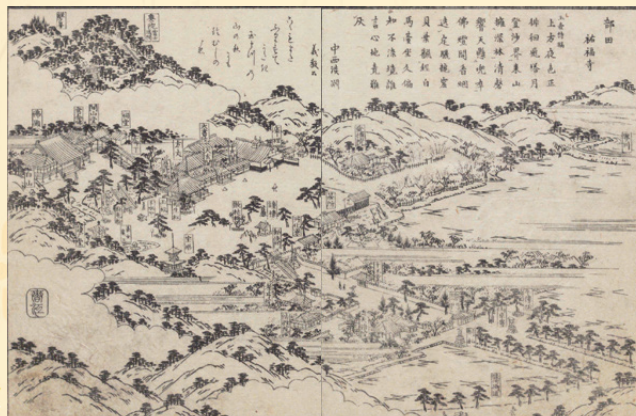


# とうごう 歴史発見! 魅力発信!!

## 小牧・長久手の戦いと 東郷町 (前編)



今回は、小牧・長久手の戦いと東郷町の関わりについてお話しします。  
傍示本城主・丹羽氏重が岩崎城の戦いを起こし、羽柴方の池田恒興ら三河へ向かう軍勢を足止めしまし  
た。結果、恒興は三河へ到達することができず、長久手で討死してしまいます。もし、池田軍が岩崎に留まら  
ず、進軍していたとしたら、先陣はどこまで進んでいたのでしょうか。実は、江戸時代の合戦記※に祐福寺を  
軍事施設として利用し、ここに一万の軍勢を留め、残りの人数で岡崎に向かうといった内容が記されていま  
す。次の目的地は祐福寺であったというわけです。岩崎城で氏重が食い止めていなければ、1584年(天正  
12年)4月9日の午前中には池田軍は祐福寺に到着し、寺を中心に東郷町の広い範囲に陣を敷いていたこ  
とが想像されます。大きな寺は兵士を收容する場所を容易に確保できるため、臨時の陣城となるケースが  
多々ありました。小牧・長久手の戦いにおいても、名古屋市守山区の龍泉寺や小牧市の小松寺などが羽柴  
軍の陣城となっています。岡崎に進軍する彼らにとって、尾張と三河の境に位置する祐福寺は魅力的な場  
所だったのでしょ。ですが、軍事施設となれば、戦火に巻き込まれる危険が伴います。実際にそれが原因  
で焼失した寺も少なくありません。諸輪や和合が羽柴軍に放火されたという伝承もあるぐらいですから、祐  
福寺を含め、東郷町全体に大きな被害を及ぼした可能性も考えられます。そうなれば、東郷町の歴史も変  
わっていたかもしれませんね。次回は「東郷町ゆかりの武将 丹羽氏重が歴史を動かした?」の後編です。  
(前編は2023年3月号に掲載しています。)



尾張名所図会前編巻之五 (愛知県図書館蔵)

※『小牧陣始末記』  
1889年(明治22年)に戦史研究の資料として刊  
行。神谷存心(1646~1729)、存心の口述を門人  
が筆記したもの。存心の祖父は水野忠重に仕  
えていたとされる。合戦の経過などを詳細に記す。  
【文】岩崎城歴史記念館 学芸員 内貴健太



祐福寺

◎問い合わせ 生涯学習課 ☎0561・38・7780

LINE 東郷町公式 LINE

Twitter 東郷町公式 Twitter

Instagram 東郷町公式 Instagram

Catalog Pocket いつでもどこでも気軽に読める!  
10言語対応配信中!

シティプロモーション動画「ちょうど級タウン東郷町」

◀左のコードを  
読み取ることで  
視聴できます。